

## 研究テーマ：コミュニケーションのための基本的文法事項の習得の研究

所属 高知県立高知農業高等学校

氏名 高島 勉

RG SH 5

### 1 研究の背景

本校の生徒は英語が苦手な生徒がほとんどである。

中学1・2年の内容についても理解できていない。

最初の段階からつまづいている。

少数ながら、全く文が読めない生徒もいる。

ノートを取ることが出来ない生徒もいる。

### 2 リサーチクエスト

教科書に出てくる文法事項を正しく、理解し、特に正しい語順で表現出来るようにし、コミュニケーション能力の基礎をつけさせる。

### 3 予備調査

#### 予備調査1 授業観察の結果

指導案+教材+その指導案付属の教材+練習問題

#### 予備調査2 英語力を示すデータ

平成15年度 第1学期 英語 期末試験問題

#### 予備調査3 アンケート、授業評価の結果

授業評価システムの利用(教員の評価と生徒自身の自己評価)(別紙)

#### 予備調査4 生徒の自己評価

授業評価システムの利用(教員の評価と生徒自身の自己評価)(別紙)

#### 予備調査5 文献研究

佐野正之著 アクションリサーチのすすめ(大修館書店)

滝口 優著 「苦手」を「好き」に変える英語授業(大修館書店)

### 4 仮説の設定

#### (1) 仮説

仮説1 テキストの文字と音が一致すれば音読できるようになる。

仮説2 音読を重視することにより、語順のパターンがつかめるようになる。

仮説3 基本として覚えなければならない文が書けるようになれば語順パターンも定着するのではないか。

## (2) 実践の方法

中学校1年生の学習内容の最初、特に現在形のところから、まず文章を正しく読む。  
読めるようになったら書かせて定着をはかる。

口頭での練習をする。

書くことの練習を積む。

主語・動詞を( )にしたプリントを作り読ませる。(個人で・ペアで)

リズムマシン、効果音・音楽を用いて音読の練習

毎時覚えさせたい文を1文選び、書く練習(読みながら書かず)(ストップウォッチ)

何回か実践して覚えた文が5～6文になればバラバラにして正しい文を作る練習

## 5 計画の実践

上記の(2)の実践の方法により出来るだけ毎時間、基本的文法事項の読む事の練習、  
声を出しながら書く練習をし、習得を目指す。

## 6 実践の結果

今まで漠然とやっていた指導が具体的になることにより、毎時の指導が明確になってきた。  
生徒も習得しなければならないものが明確になり、以前より向上が見られた。

## 7 結果の検証

正解問題数	5問	4問	3問	2問	1問	0問	合計
1学期期末テスト	0	0	8	16	18	11	53
2学期期末テスト	3	9	13	17	7	5	53

今回の実践で上記のような結果がでた。やはり、目標を定めて授業を行うことにより  
良い結果が得られることをがわかった。

## 8 成果と今後の課題

研究の背景となったように本校の生徒は英語が苦手な生徒がほとんどで、中学1・2年の  
内容についても理解できていないなど問題を抱えたまま、漠然と指導していたが、問題解  
決のためにアクションリサーチによる授業改善の手法を今回研究してこの方法を取り入れ  
て、実践することにより、生徒の学力向上につながった事は大きな成果である。

今回は初めてアクションリサーチという方法を学び、まだまだわかりかねているところ  
があるので、何回かこの手法を実践することにより、さらなる授業改善を目指していかな  
ければならない。